

木崎中だより

1号

令和2年4月8日(水)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

未来を拓く学校

校長 大谷 慎也

桜の花びらが舞い、早くもつつじのつぼみが色付く本日、新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応により、例年とは大きく異なる学校開きとなりましたが、初々しい305名の新入生を迎え、進級した2・3年生とともに、教職員一同、令和2年度の教育活動の第一歩を何とか踏み出すことができました。これまで生徒、ご家族の皆様、地域の皆様にご心配をおかけいたしましたことを心からお詫び申し上げます。

さて、昨今の少子高齢化の進行、家族形態と地域社会の変化、技術革新、グローバル化等、教育を取り巻く状況が大きく変化しています。本市では、昨年3月に今後10年間を見据えて策定された「第2期さいたま市教育振興基本計画」において、目指す人間像を「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」と設定されました。そして、その実現に向け、基本理念「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」が掲げられ、各施策に着手し始めたところです。一方、学校教育におきましては、超スマート社会の実現に向け、AIやビッグ・データの活用に関連し、昨年末に国から「GIGAスクール構想」が示され、ICT教育の推進に拍車がかかることとなりました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応が第一となります。このような中ではありますが、本校の教育につきましては、学校教育目標「よく考えて行動する生徒 思いやりのある生徒 はつらつとした生徒」の具現化に向けて、「一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造」とし、21世紀となってからの四半世紀の年までを目標として、教育活動を進めていく所存であります。例として、読解力向上を目指す授業やICTの活用によるアクティブ・ラーニング型授業、あるいは、SDGsの実現を目指すESD(持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ教育)に取り組んでいきたいと考えています。しかしながら、教育の不易を忘れてはなりません。校風の普遍化を目指し、「さわやかなあいさつ」・「少しの気配り」・「響く校歌」の3つをキーワードとして、地域を元気にする学校ともなるように継続して取り組んでいきたいと考えています。

現在私たちは、これまで経験したことのないような地球規模の不安が続く状況の中にいます。しかし、歴史に学べば、私たちの先人は、どんな困難にも立ち向かい、乗り越えてきました。私たちは負けません。生徒、職員が家族のごとくお互いに思いやりをもち、助け合い、かけがえのない命を大切に、英知を結集して可能な限り楽しい学校生活を送れるように努めてまいります。保護者・地域の皆様には、何卒温かいご支援と協力を賜りますようお願い申し上げます。新1年生、みんなで頑張りましょう。